



①

①自衛隊ヘリで阿武隈川の河川敷に到着した緊急被ばく医療チーム第1陣メンバー(平成23年3月13日午後4時、福島市)



②



③



④



⑤

- ②バスの車内で行われた避難患者の放射線サーベイ。ほとんどが高齢者で満席状態だった（3月14日午前6時、南相馬市）
- ③搬送されてきた警察車両から降りる避難者たち。受け入れ先が決まらず、相双保健福祉事務所で待機となった（3月14日午後10時）
- ④原発近くにあったオフサイトセンターに向かう途中、車内から撮影した双葉町内。あちこちで家屋が倒壊していた（3月14日午後1時すぎ）
- ⑤福島県自治会館内に設置された緊急被ばく医療調整会議。住民の放射線スクリーニングや被ばく医療体制整備の司令塔となった（3月15日午後8時半、福島市）





⑦



⑧



⑨



- ⑥ 福島県立医科大学附属病院に向け、負傷者をヘリで搬送するスタッフ（3月16日午前10時50分すぎ、福島県楢葉町の福島第二原発グラウンド）
- ⑦ 敷地内の一角にあるテニスコートには除染テントが設置された（4月5日、福島県楢葉町のJヴィレッジ）
- ⑧ 福島第一原発事故に対応して活動する自衛隊員や作業員の最前線基地となっていたJヴィレッジの施設内（4月9日、Jヴィレッジ）
- ⑨ 福島第一、福島第二原発で作業する要員が着用する防護マスクや靴カバー（4月9日、Jヴィレッジ）



⑩



⑪

- ⑩一時帰宅中継拠点となった体育館に集まり、防護服を着用した住民たち（6月14日、福島県川内村村民体育センター）
- ⑪一時帰宅を終えた住民たちはバスを降り、放射線測定などのため体育館へ（6月14日、川内村村民体育センター）
- ⑫高度医療が必要な被ばく患者受け入れに備えて設営した大型除染テント。3月16日から6月13日まで設置した（広島大学霞キャンパス内）
- ⑬福島市内の応急仮設住宅の集会所で、避難している飯館村民らの質問に答える神谷教授（中央）と福島県立医大の安村誠司教授（11月26日）



⑫



# 主な現地活動拠点

